

飢餓の無い未来を祝うために、 コミュニティは前進を続けています。

HFW(ハンガー・フリー・ワールド)は「全ての人が食料への権利を持つ」ことにコミットしています。この達成のために、私たちは3つのことを目指しています。1. **コミュニティの人々の能力向上**、2. **家庭の食料安全の向上**、3. **家庭の経済状況の向上**です。私たちはこれらの目標は、人間の精神を解放する総合的な人間開発によって達成されると信じています。

カリガンジの小学校の運営は、運営委員会と教師の献身的な努力で成功しています。現在、幼稚園から小学校5年生まで220人が在学し、政府のカリキュラムに沿って週6日授業をしています。今年は、5年生17名(男子11人、女子6人)が、政府の全国的な小学生卒業資格試験に臨みます。私たちは、来年、生徒たちに視聴覚機器の使い方を教えるために、マルチメディア教室をもう一つ増設することを目指しています。

飢餓を終わらせる鍵は女性です。しかし、我々の社会では女性は最も困窮した弱いグループです。私たちは女性を力づけるワークショップを行い、人間中心の開発を行っています。その時、偉大な師である栗原弘美先生の教えが、私たちを導いてくれています。

カリガンジでは13の村で「ウィメン・エンディング・ハンガー」という女性グループが活動しており、各グループは貯蓄を持ち、自分たちで少額貸付制度を運営して、女性たちに小規模ビジネスを奨励しています。現在、多くの女性が有機栽培に取り組み、牛糞から堆肥を作り、生産した作物を市場で売っています。この仕組みは、こころのビタミン研究所の寄付で創設された「笑顔の女性賞」によって促進されてきました。多くの女性リーダーたちは、バングラデシュでの栗原弘美先生のセミナーに参加しています。

女性たちは経済的に豊かになっており、社会的にもパワフル

カリガンジの学校の先生たち



有機農業に取り組む人々とミトン(前列左から4人目)

で、健康への意識も高まっています。自分たちで生活協同組合を組織し、現在は地域に病院を創ろうとしています。その決心は固く、地域の友人たちからも資金を集めています。母親と子どものケアセンターを運営し、全ての妊産婦が安全に出産し、全ての子どもが予防接種を受けられるなど、家族の健康を守りたいと願っています。

「2021年までに飢餓のないバングラデシュを」というのが私たちのビジョンです。その年、このビジョンを達成し、日本のパートナーといっしょに、バングラデシュ独立50周年を祝いたいと願っています。

あなたたちは、私たちが障害しか見えなかった時、それを乗り越える機会を創作してくれ、私たちに希望をもたしらしてくれました。心から感謝しています。そして愛しています。

(HFWバングラデシュ事務局長 アタウル・ラーマン・ミトン)

■平成28年度 収支報告 (平成28年4月1日～平成29年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	695,000	勉強会事業	8,600
勉強会事業	32,000	相談事業	128,366
相談事業	200,000		
海外支援事業		海外支援事業	
バングラデシュ	201,309	バングラデシュ	3,661,495
ハイチ	4,500	ハイチ	3,388,448
東日本大震災支援	5,000	東日本大震災支援	105,600
熊本地震支援	548,585	熊本地震支援	567,338
寄付金	13,736,524	あしなが育英会へ寄付	180,000
		子ども支援	2,300,000
		喪失回復プログラム	136,080
		会報及び出版物発行	208,087
受取利息	351	管理費	2,834,377
当期収入	15,423,269	当期支出	13,518,391
前期繰越金	20,118,952	次期繰越金	22,023,830
合計	35,542,221	合計	35,542,221

こころのビタミン研究所の活動にご支援よろしくお願いします!

【振込先】 郵便局:ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座:三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所

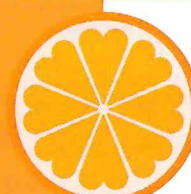
〒108-0073
東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL:03-5765-1956 FAX:03-5765-1961
E-mail:info@cocoro-v.org
URL:http://www.cocoro-v.org
ブログ:http://ameblo.jp/cocoro-v



ビタミンニュース NO.22 2017年12月号
発行日/2017年12月20日 発行/こころのビタミン研究所

Vitamin News

ビタミンニュース NO.22 2017年12月号



「子どもたちは私たちの未来」 ハートフルファミリーの集い開催!

「すべての人にこころの相談相手を」をモットーに、2001年に発足したNPOこころのビタミン研究所は、今年で創立15周年を迎え、毎年恒例のハートフルファミリーの集いを4月15日(土)にビジョンセンター田町において開催。日頃から支援して下さっている会員の皆様に活動報告と感謝を伝えました。

今回の集いは、年々、日本において深刻な問題となっている「子どもの貧困と孤立化」に焦点をあて、子どもの支援活動をしている4団体をお招きしました。

ゲストスピーカーは「学び塾 猫の足あと」代表、岸田久恵さん、「NPOピアサポートネットしずや」の渋谷ピアネット・ずっとも食堂運営委員長、小水知映子さん、「NPOほっとすぱーす・つき」の居場所担当、坂根亜衣さん、「一般社団法人てらこや新都心」の代表、大場明美さんの4名。それぞれに子ども食堂や学習支援を始めた思いや、現在の課題、今後のビジョンなどを語っていただいた後、参加者と一緒にグループ討議を行いました。参加者からは、「他人事とは思えない」と思いを語る人や、「助けてくれる場所があるということをもっと知らせることが大事」など活発な意見交換となりました。

(理事:湯田佐恵子)



ゲストスピーカーのみなさん。右から岸田久恵さん、小水知映子さん、坂根亜衣さん、大場明美さん

ESP学園の楽園祭に出店

こころのビタミン研究所は、都内のESP学園で「心の相談室」として定期的にカウンセリングを行っています。11月3日・4日の学園祭「楽園祭」に「占いの館」を出店。こころのビタミン研究所から4人のカウンセラーが出向き「カードリーディング」を行いました。

当日は学生や外部の方含めて60名近くが来店し、カウンセラーの言葉に「大当たり!」「気づかされました…」など大いに盛り上がりしました。

カウンセラーは「みなさんが、今後のこころのヒントをつかんで、満足して帰られたのがとても良かったです。いい一日を過ごすことができました」と語っていました。

インターナショナルトレーニングに パンナさんとセンチルさんが来日

8月11日～18日までJALシティ田町で開催されたビジョン心理学インターナショナルトレーニングに、バングラデシュからパンナさん(HFWハンガー・フリー・ワールド・バングラデシュ スタッフ)とハイチからセンチルさん(IAHイニシアティブ・アゲンスト・ハンガー 代表)をお招きしました。

セミナーの中で、二人は支援への感謝と共に自国の状況や活動の様子をプレゼンテーションしました。

パンナさんは「カリガンジの小学校の最初の卒業生がそろそろ大学に入る年齢になりました。ぜひ日本に留学して、学んだことをバングラデシュに持ち帰ってほしい」というビジョンを、センチルさんは「ハイチの若者が海外に流出せず、

自国で職を得られるよう職業訓練センターを作りたい」というビジョンを語りました。

懇親パーティーでの恒例のチャリティオークションでは、売り上げがなんと130万円にも上り、今回のセミナーでの寄付金総額は約170万円にもなりました。みなさんの貢献に心から感謝します。

(理事:磯ヶ谷ふき子)



セミナーでプレゼンテーションするパンナさん

子どもたちへ— みなさんの支援の輪が広がっています

NPO法人 ほっとすぺーす・つき

千葉県佐倉市の「ほっとすぺーす・つき」は、自己肯定感が低く、問題を抱えている子どもたちを長期的に支えて力づけることを目的に、居場所作り、子ども食堂、学習支援などを行っています。



佐倉市主催のフェスタでバザー

不登校や虐待、生活困窮など、問題を抱えている子どもたちには話をしっかり聴いてくれる大人が必要です。居場所は、他者から認められる体験、学習の習慣や食の知識を学べる場でもあります。

こころのビタミン研究所からのこれまでの寄付金60万円は、人件費や子ども食堂の経費に充てられています。

11月26日には、活動紹介と資金集めのために、佐倉市主催によるボランティア団体のフェスタに参加しました。「バザーの売り上げも予想の3倍と嬉しい忙しさでした」と徳富隆子さん(こころのビタミン研究所理事)は話していました。

ピアサポートネットしぶや

渋谷区は核家族や共働き世帯が多く、親子の孤立、子どもの孤食が問題になっています。

ピアサポートネットしぶや「渋谷ピアニット・ずっとも食堂」は区内6か所で、孤立しがちな子どもたちに食事付き夜の居場所と学習支援を



ずっとも食堂は子どもたちの夜の居場所

しています。各会場で月1回午後5時～8時頃まで、大人の見守りの中で、子どもたちは勉強し、レクリエーションを楽しみ、夕食をとります。中心的な調理員3名と学習支援員2名には交通費程度の謝礼を出して、継続した支援ができるようにしています。参加費は300円ですが、それだけではとても賄えません。こころのビタミン研究所からのこれまでの寄付金60万円は食材費、教材費、遊具、広報物などに活用することができ、大変感謝されています。

学び塾「猫の足あと」

西東京市の学び塾「猫の足あと」は小・中学生に学習支援をしています。

こころのビタミン研究所からのこれまでの寄付金60万円は、学習支援を

する大学生への謝礼金や夏休みの理科実験教室、工作教室、食事代などに使われています。

中学生にとって、少し先輩で目標となる大学生に教わることは学習意欲が高まり、大学生にとっても貧困の実態や社会問題を知る機会になります。大学生には交通費を含め1回の指導に2,000円の謝礼金を出しています。

代表の岸田久恵さんは「こうした場が必要な子どもたちはまだ大勢います。来年はNPOになって、より多くの子どもたちに伝えられる組織にしたい」と語っています。



夏休みの理科実験教室

てらこや新都心

今の子どもたちは、食の貧困、家庭環境の貧困、精神的貧困など、様々な問題を抱えています。

さいたま市の「てらこや新都心」は、地域の子供たちへの支援として、子ども食堂「てらこや食堂」と、子どもの居場所「子どもラボ」の活動をしています。

「てらこや食堂」は約月1回開催し、4月～9月まで、延べ133名の子どもと113名の大人が参加。年代も家庭環境も様々な子どもたちが共に食事をし、母親同士の交流の場にもなっています。「子どもラボ」は平日週5日、見守りボランティアが常駐し、子どもたちは自分たちで考え、行動し、結果を受け入れることで、自主性、協調性、独立心、自己肯定感などを育み、生き生きとした時間を過ごしています。

こころのビタミン研究所からの寄付金50万円は、食材や文具代など団体の順調な運営のために役立っています。



大学の落研生による落語会で大笑い

こころのビタミン研究所は、昨年度から皆様からのご寄付を子ども支援のために、4月のハートフルファミリーの集いにお招きした4団体の他、NPOからだフシギ、セスラの会ハイチを支援しています。各団体の活動報告や感謝の声をお届けします。



ハイチから感謝をこめて

みなさんの貢献が私たちが動かし続けています。



セミナーに参加したセンチル(中央)



赤ちゃんを診察する小児科医



7月に購入したトヨタの四輪駆動車

8月の国際セミナーに参加させていただきありがとうございました。セミナーは、ハイチで仕事もなく病気で貧困に苦しんでいる人々を助けるという、自分のコミットをより深めてくれました。又、オークションなどで寛大な貢献をして下さった皆様に心から感謝します。

皆様の支援で7月に老朽化していた車を買替えることができ、どんなに嬉しかったか知れません。ディーラーに私たちの活動が非営利であることを説明したところ、2005年製トヨタの四輪駆動車を11,500ドル(約130万円)に大幅値引きしてくれました。

また、医療センターには週5日、医師が来ていますが、9月からは小児科医を雇い、週に一度、新生児から10歳までの子どもを診察するようになりました。妊婦と子どもたちには毎週、トウモロコシの粉と粉ミルクを配布して栄養プログラムを強化しています。

ハイチでは、多くの若者がチリやブラジルに流出し、国内では技師や教師、医師などあらゆる分野の専門家が不足し、大変深刻な問題となっています。私は今後この問題にも取り組んでいきたいと思っています。これからもご支援よろしくお願いします。

(IAH代表 センティル・ラゲル)

NPOからだフシギ

「NPOからだフシギ」は、だれもが当たり前「からだの知識」を持つ社会をめざす聖路加国際大学のNPOです。

体の基礎知識があれば、自分の体を大事にし、医師・看護師と上手にコミュニケーションをとり、誤った医療・保健情報に振り回されにくくなります。そのためには、5、6歳から体の知識に触れることが大切と考え、幼稚園や保育園、図書館などで、紙芝居やからだTシャツを使った「おはなし会」行い、また、保育士や幼稚園教諭、保健師、親などに対して「からだせんせい」になるための研修会を開催しています。

国際医療福祉大学看護学科教授の世良喜子さん(ハートフルファミリー会員)は「こころのビタミン研究所からのご寄付30万円は、教材の開発やからだ絵本などの増刷に使わせていただきます」と感謝を述べています。



世良喜子さん

ハイチの会セスラの小学校への支援を開始

こころのビタミン研究所は、国内の子ども支援だけでなく、ハイチの学校への支援も開始しました。

横浜市のNPOハイチの会セスラは、ハイチのアルチボニット県のモーリヤンクセスラ校を運営しています。セスラ校は、2010年に1クラスからスタートし、毎年1クラスずつ増やし、2017年6月現在、8学年9クラス、270人が学んでいます。9月の新学期には5年生が6年生に進み、幼稚園・小学校の全学年が揃いますが、それに伴い教室が2つ不足し、その建築費用を必要としていました。

こころのビタミン研究所は2教室の増設費用を含めて50万円を寄付し、9月には無事教室が出来上がりました。ハイチの会セスラの高岡美智子代表は「今はまだ粗末な教室ですが、できるだけ早く、きちんとした学校を建設したい」と願っています。こころのビタミン研究所は、今後ともパートナーとしてセスラ校を応援していきます。



新しい教室で元気に学ぶ生徒たち